

荒川の安全を守る施設

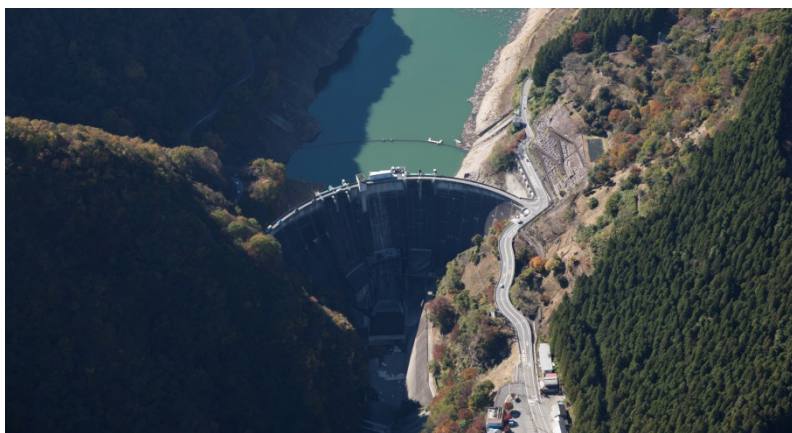
～水害から身を守る様々な工夫を紹介します～

洪水を防ぐ施設や災害時の道路を整備し、減災・危機管理対策を行っています。

荒川上流部改修から
100年
1918-2018



川を安全にするさまざまな施設



ダム（二瀬ダム）



朝霞水門

川を安全にする様々な施設

全国各地で毎年のように大規模な災害や土砂災害が発生しており、そうした災害から荒川流域の安全を守るため、堤防や護岸、ダム、排水機場等といった治水施設が多数整備され、今も既存の施設を適切に維持管理するための各種調査や整備が続いています。



2015（平成27）年9月関東・東北豪雨による鬼怒川の破堤の様子

▶ 治水施設

川を安全なものにするために、川のまわりには、堤防のほかにも、いろいろな施設が、上流から下流までつくられています。

- 堤防：川の水があふれるのを防ぐため、両岸に土を盛り上げてつくられる施設です。
- 護岸：川の流れて川の岸がくずれるのを防ぐため、木や石、ブロックなどで岸を固めることを護岸といいます。そこに棲む生きものにやさしい護岸を多自然型護岸といいます。
- 水門・排水機場：大きい川から小さい川に洪水が逆流するのを防ぐために、川と川の合流する場所につくられたのが水門です。水門によって出口を失った水を、ポンプでくみ上げて大きな川に出すのが排水機場です。
- ダム：川の上流で、川の水をせき止め、貯める施設です。大雨を一度に下流に流さないようにするほか、ためた水をいろいろな用水や発電に役立てる働きをします。



小畔川の堤防（川越市）



都幾川の護岸（東松山市）

▶ 危機管理施設

大規模な災害が発生した際に、的確な避難や応急活動、緊急用物資の輸送、被災した河川管理施設の復旧工事等を円滑に行うため、緊急用河川敷道路、災害時の緊急輸送路等主要道へ接続する坂路、緊急用船着場の整備を行っています。緊急用河川敷道路は、災害時において復旧活動等に利用することを目的として設置されたものであり、緊急用船着場等と接続し、災害時の物資の輸送路となるものです。緊急用船着場は、大規模震災等による災害発生時に都市の復旧活動に必要な資機材や、食料や衣料品などの救援物資を船で運搬し、荷揚げ作業を行う施設です。

また、震災時に緊急医療搬送や指揮官等の派遣や緊急資機材の運搬を行うヘリコプターの離発着を行うための場所として高水敷に臨時ヘリポートを設けています。



緊急用河川敷道路



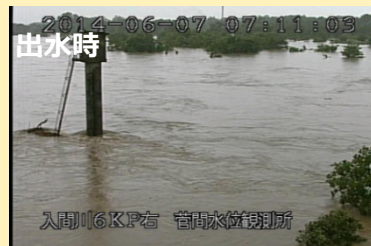
緊急用船着場



臨時ヘリポート

▶ 河川管理施設

河道や堤防、水門・排水機場などの治水施設の状況を正確に把握し、改修や維持管理を適切に実施するため、河川巡視や定期的な点検を行うとともに、雨量観測所や流量観測所、水質観測所による基礎データの観測、CCTVカメラや光ファイバーによる雨量や水位、河川映像情報を提供しています。



CCTVカメラによる出水時の状況把握

